



八幡本陣跡
八幡本陣には、幕末動乱期に「公武合体」の象徴として、第14代将軍の徳川家茂に降嫁した皇女和宮が泊っており、和宮から下賜された品物などが現在も伝えられている。

八幡神社
地名の由来となった神社である。旧本殿「高良社(こうらしゃ)」は、延徳3年(1491年)の建立。端籬門は宝永5年(1708年)の建立。拝殿は、天保14年(1843年)の建立。



Google 100 m 200 ft

瓜生峠の一里塚
 北方の塚が、道路で半分削られながらも残っている。
 日本橋から45番目の一里塚。

祝言道祖神
 長野県安曇地方で発生した道祖神で、
 宮廷貴族の装いをした男女が酒を酌み
 交わしている像。神々の装束を身にま
 とっているものが通例な中において、宮
 廷風の造りは非常に珍しい。





Google 100 m 200 ft

地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約

旧茂田井高札場跡

茂田井

武重本家
酒造

武重本家酒造

明治元年、武重徳左衛門(武重家12代当主)が
現在地に酒造の権利を得て開業した。
大門に酒林(杉玉)が下がっている。

茂田井標識

茂田井は、東の望月宿と芦田宿の間にある
旧村で、現在は間の宿とも呼ばれている。

にごり池

古峰神社

中山道

148

148

142

142

142

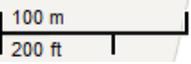
古峰神社



仲町

中山道

Google



茂田井一里塚跡
一里塚は、信長の時代に設けられ、徳川家康・秀忠が引き継いで慶長9年(1604)に完成した。
天保年間の、茂田井村差出帳には、当時この両側に土塚があり、榎の根本が残っていたとある。

石割坂
急な上り坂で、現在は舗装されているが、当時はとても悪路であった。





土屋本陣跡
 本陣土屋家は、問屋を兼ね芦田宿の開祖でもあった。
 往時をそのまま伝える建物は、中山道唯一と言われている。

馬頭観音

道祖神

芦田川橋
 芦田川に架かる小さな橋である。

蛇石様
 江戸時代末期頃から蛇石神社として、石を覆うような社があったとされ、現在は、まわりが2m以上ある大きな石のみが残され、石の真ん中には蛇が通った跡と思われる筋が残っている。

山浦家脇本陣跡
 脇本陣を山浦家が勤めていた。

金丸土屋旅館
 文化元年創業

庄屋・山浦家脇本陣跡
 山浦家は庄屋と脇本陣を兼ねていた。
 建物は慶長・元和(1596~1624年)に建てられたもの。

地図 航空写真
 ソルヤ 立科店

寺 コメリハード
 グリーン・立科
 立科町役場

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約



石打場公園
道標あり

常夜塔

双体道祖神

馬頭観音

領界石

笠取峠
松並木

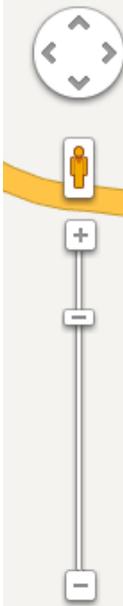
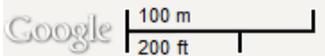
常夜燈・道祖神

正明寺

境内には立派な紫雲の松があり、南無阿弥
陀仏の石碑や地蔵も建っている。

笠取峠松並木

江戸時代、徳川幕府により整備された松並木。現
在も、樹齢150~300年と言われている約70本の
アカマツがあり、往時の風景を留めており、天然
記念物に指定されている。





松並木碑

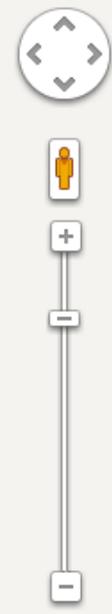
Google | 100 m | 200 ft



笠取峠一里塚碑
47里目の一里塚。形はほとんど留めていないが、塚木のアカマツが往時を残す。

笠取峠標柱





峠の茶屋

常夜燈・テニスコート

擁壁に立場茶屋のレリーフ

旧道あり

Full Bloom

旧道があるので左側のガードレールに注意！！

旧道あり





赤い社・道祖神

直進しないように！

旧道があるので左側のガードレールに注意！！



Google | 100 m | 200 ft

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約





釜鳴屋
戸時代初期の建物と言われており、笠取峠
立場図版木と、宿場札の版木が、町文化財
として指定されている。

旅館濱田屋

長門町消防団第三分団を右折

長久保

旅籠・辰野屋

本陣跡
江戸初期よりの古文書、高札など貴重な文
書、史料が数多く残されており、町の文化
財に指定されている。

松尾神社
本殿は諏訪の宮大工の建築。彫刻が見事
であることから、町の指定文化財になって
いる。





Google 100 m 200 ft

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約

三郎山 ▲

三郎山 ▲



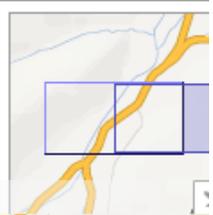
旧道あり

四泊の一里塚跡

セブンイレブン

依田川

四泊





水明の里
中山道の地図や、和田宿と和田峠に関する解説が書かれている。
その隣には、石碑が建っている。

青原

落合

中山道

大和橋

落合橋

和田橋

北原石材店

階段

大門川

依田川

青原

中山道

Google 100 m 200 ft





藁葺バス停

常夜燈・道祖神
中組公民館前

馬頭観世

ミミズの碑

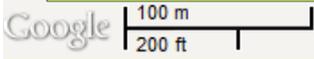
ミミズの碑は、この地蚯蚓に住む人々の希望により祭られた。

中組

齋藤木材
工業

142

142





三千僧接待碑

信定寺別院慈眼寺境内に建立されていたものだが、寛政7年(1795)この地にうつされた。諸国遍歴の僧侶への接待碑で一千人の僧侶への供養接待を発願して見事結願し、一躍二千を増した三千の僧侶への供養接待を発願したと碑文に刻まれている。碑を見れば誰の目にもわかるように一千僧の一の字を三千僧の三の字に改刻した跡が歴然としている。

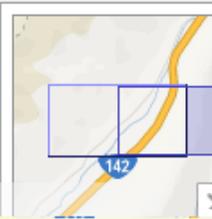
長門町水防資材庫
清水が出ている

地図 航空写真

下和田

Google | 100 m | 200 ft

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約





不動明王

下和田

半鐘櫓

馬頭観世音

石碑石塔群

上組の一里塚跡
日本橋から49番目の一里塚。

若宮八幡神社

祭神は、仁徳天皇である。
棟札には享保6年(1721年)建立とある。正面と側面に廻縁をつけ隅組擬宝珠柱混用の高欄をめぐらし、脇障子には、輪違文に六瓣花が彫刻された各部分の調和がとれた建築である。
天文23年(1555年)和田城主大井信定と武田信玄が矢ヶ崎で合戦、**信定父子を始め、一族郎党ごとごとく戦死しその父子の首級がここに埋葬された。**
元禄6年(1693年)その回向の為、信定寺第六世来安察伝和尚が、当境内に墓碑を建立した。**ケヤキは推定500年**

上組



Google | 100 m | 200 ft



菩薩寺
 安和元年(968年)、空也上人が奥州へ向う途中、この地で説法をし小堂一字を建立したのが寺の始まり。
 武田信玄との兵火により焼失したといわれ、江戸時代に再建された。

八幡社本殿
 祭神は応神天皇で、かつて和田城主大井氏の鬼門除けに作られたとの伝承がある。

かわち屋
 和田宿の旅籠のうちでは規模が大きい方である。

マツ林

問屋跡・旅籠大黒屋

和田宿碑

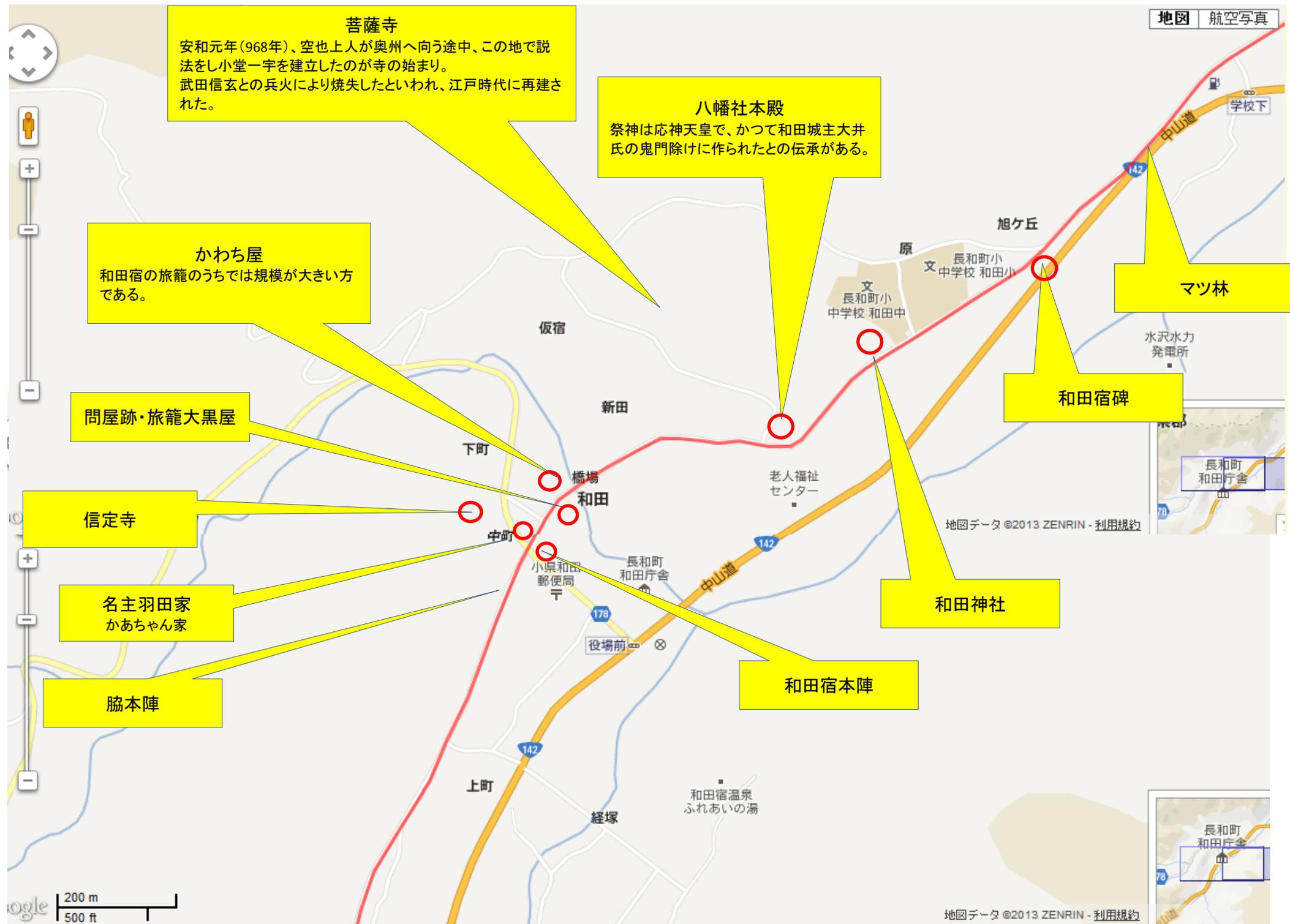
信定寺

和田神社

**名主羽田家
かあちゃん家**

和田宿本陣

脇本陣



和田拡大図

菩薩寺

安和元年(968年)、空也上人が奥州へ向う途中、この地で説法をし小堂一宇を建立したのが寺の始まり。
武田信玄との兵火により焼失したといわれ、江戸時代に再建された。

旭ヶ丘

原
長和町立
和田小学校
文

長和町立
和田中学校
文

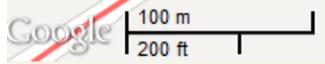
中山道
142

水沢水力
発電所

八幡社本殿

祭神は応神天皇で、かつて和田城主大井氏の鬼門除けに作られたとの伝承がある。
本殿は、一間流造で墓又には巴紋が入っており、妻の大瓶束が軍配団扇形となっているのが特徴である。全体にすっきりした建築で、江戸時代中期の作と推定されている。
拝殿と覆屋を併合した入母屋造りの建物も珍しい建築である。

新田



和田拡大図

和田宿本陣

和田宿本陣は、文久元年(1862年)3月の大火で焼失したが、同年11月の皇女和宮隆嫁にそなえてただちに再建された。その後明治期に座敷棟は丸子町龍願寺へ、また座敷棟の正面にあった御入門は丸子町向陽院へと、それぞれ移築された。

菩薩寺

八幡社本殿

新田

下町

橋場

和田

老人福祉センター

脇本陣

既存の建物は翠川家の御殿部分のみであるが、上段の間、二の間、脇上段、次上段の間のほか風呂場、廁等江戸末期の姿をよく伝えており、上田、小県地方における脇本陣唯一の遺構である。

かわち屋

中町

小県和田郵便局

長和町和田庁舎

役場前

中山道

中山道

中学校 和田文

長和町 和田庁舎

和田拡大図



下町

橋場
和田

老人福祉
センター

中町

和田拡大図

小泉和田
郵便局

長和町役場
和田庁舎

役場前

中山道

上町

和田宿温泉
ふれあいの湯

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約





道祖神

双対道祖神

上町

経塚

中山道





Google 100 m 200 ft



鍛冶足一里塚
日本橋から50番目の一里塚。

大出橋





Google
100 m
200 ft

東邦
パーライト
工業

季節料理杉の屋
街道沿いに道祖神がある

そば処黒曜





ドライブ
イン和田宿



Google | 100 m
200 ft



▲
ミヤシタ・ヒルズ
オートキャンプ場

旧道あり

中山道

一之橋

Google | 100 m | 200 ft





茶屋本陣跡
茅葺き屋根の旧家が残る。

唐沢発電所

石垣の二階建て家の前
を左に折れる

二之橋

唐沢

中山道

旧道あり

旧道なし

唐沢一里塚
塚木こそ残っていないものの、塚自体は、両側とも原型を留めている。
日本橋から51里目の一里塚。

和田川

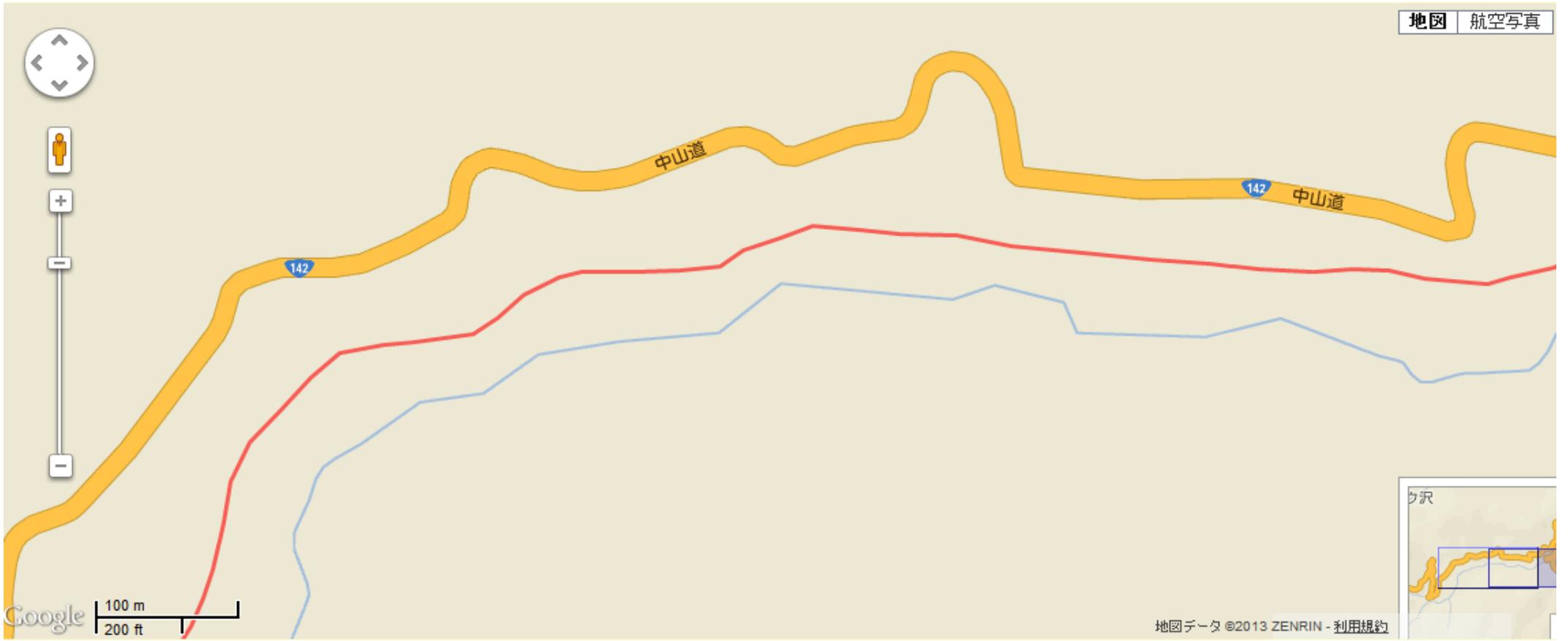




三十三体観音
山の中腹にあった熊野権現社の前に並んでいた石像。旧道の退廃とともに荒れるにまかせていたが、昭和48年に調査発掘され、旧道沿いに安置された。現在安置されているのは29体で、4体は不明である。



Google 100 m 200 ft



Google 100 m 200 ft



近藤巡查殉職碑

常夜燈

接待

永代人馬施行所跡

和田宿から下諏訪宿までは、中山道随一の長丁場で、人家もなく、旅人の苦労が多かった。文政11年(1828)、江戸呉服町の豪商「かせや与兵衛(有隣)」がこの難儀を救おうとして幕府に願い出て、それによって、小屋を作った。ここでは、11月から3月まで立ち寄った旅人には、粥一杯と焚火、そして、牛馬には年中、桶一杯の飼葉が施された。現在はその跡地に昔を模した、茅葺屋根小屋がある。



近藤巡查殉職の地碑

避難小屋

広原の一里塚

和田嶺神社碑

土管をくぐる

キャンプ場・石畳

階段を下ってピーナスラインを越えて階段を上って行く

石畳を入れる

黒曜石の店
東餅屋茶屋跡

山



和田峠1,531m

草道

ガレ道

水飲み場

石小屋跡

西餅屋の一里塚跡
ガードレールの切れ目から下った所にある。53里目。

棧

ガレ場

倒木有

清水の峠道

西餅屋



浪人塚(水戸浪士の墓)

元治元年(1864)11月20日水戸浪人(天狗塔)の総勢千余名が、和田峠で、待受けた松本・高島藩士と争い、多数の死傷を出した。それを慰霊する塚である。塚の周りは多数の桜の木があり、開花時には見事である。

クリックしてズーム

(有)新井
モータース

■ 新井重機

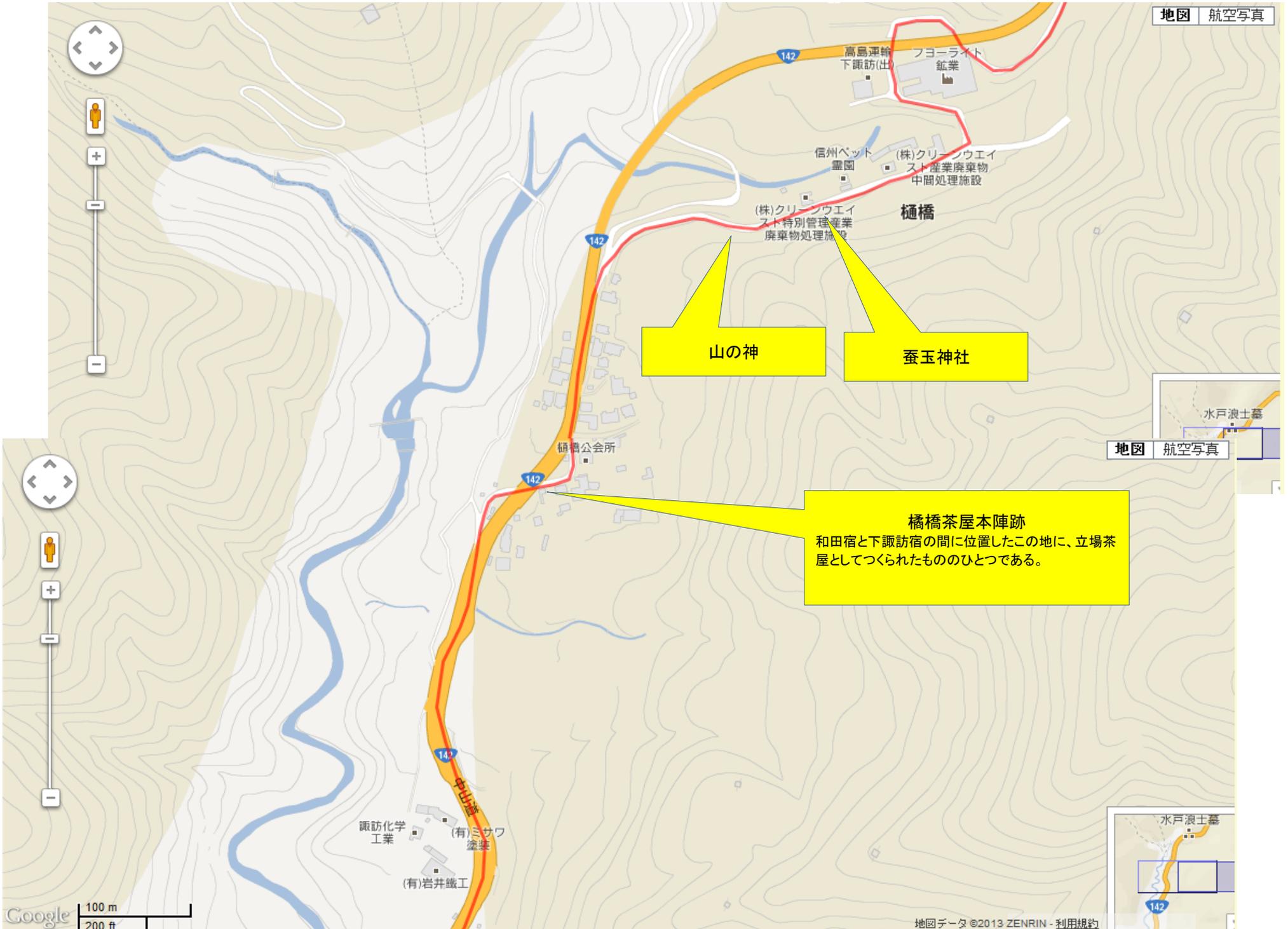
中山道

142号線下をくぐる

水戸浪士墓

フォーサイト
鋳業

Google 200 m 500 ft



橘橋茶屋本陣跡
 和田宿と下諏訪宿の間に位置したこの地に、立場茶屋としてつくられたもののひとつである。





センター産 地図 航空写真
廃棄物焼却施設

142
中山道
(有)河西
建築工業

岩村土木
はーばる
ぶれいす

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約

地図 航空写真

下屋敷

功電舎
下屋敷
公会所

(株)タカベ
精工

(株)小林
スプリング
製作所 諏訪工場

湖北工業(株)

山吉精工

幹工業(有)

(有)双葉
製作所

(株)川合染
工第三工場

町屋敷3組

(有)笠原精工

(株)小川
シャーリング

(有)竹花精工

化興(株)町
屋敷工場

陶房
レンボー

Y
s-style

町屋敷2組

ミズリ
理髪店

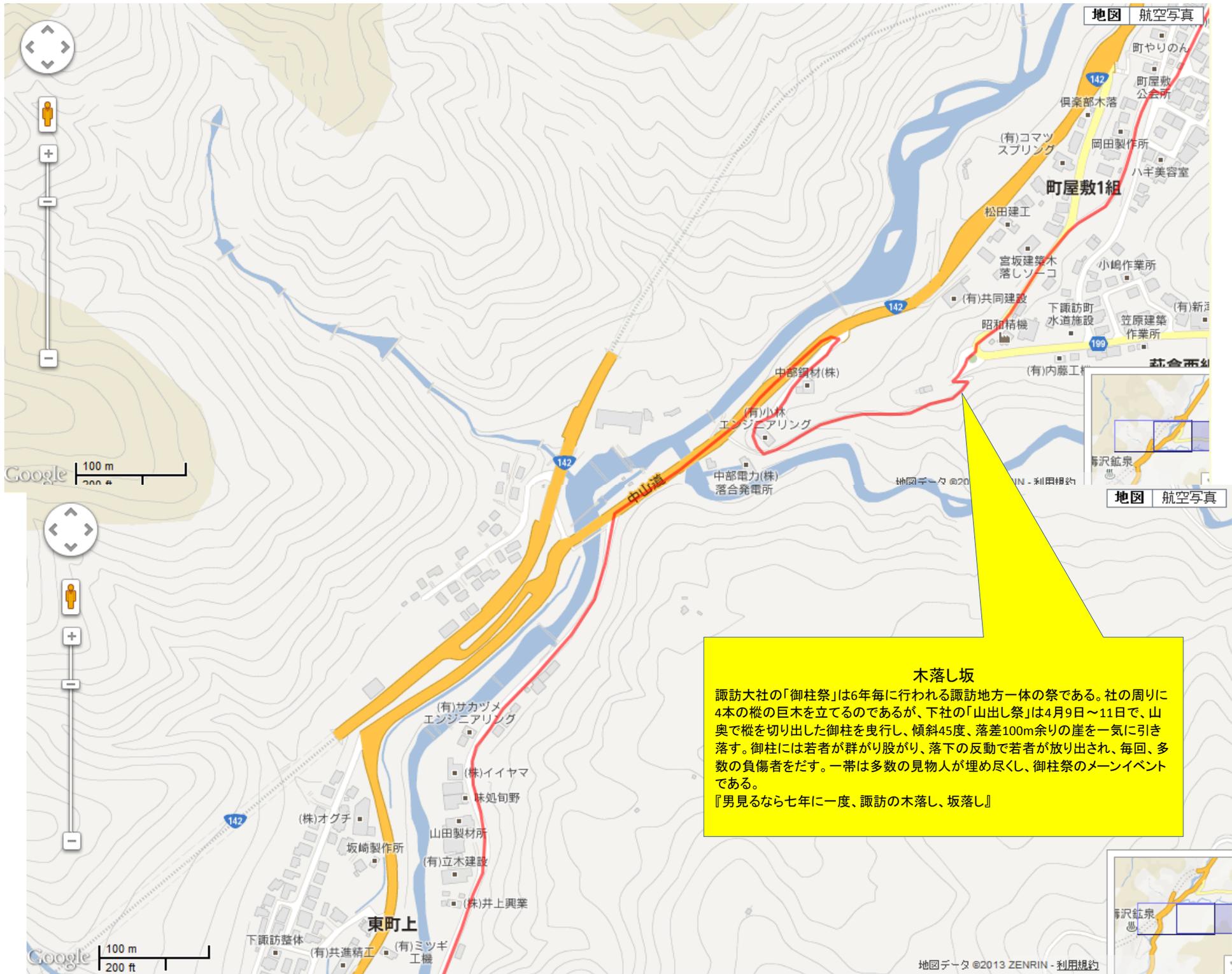
網ニッ(株)

(有)中澤企画

町やりのん

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約





地図 航空写真

地図 航空写真

木落とし坂

諏訪大社の「御柱祭」は6年毎に行われる諏訪地方一体の祭である。社の周りに4本の縦の巨木を立てるのであるが、下社の「山出し祭」は4月9日～11日で、山奥で縦を切り出した御柱を曳行し、傾斜45度、落差100m余りの崖を一気に引き落す。御柱には若者が群がり股がり、落下の反動で若者が放り出され、毎回、多数の負傷者をだす。一帯は多数の見物人が埋め尽くし、御柱祭のメインイベントである。
『男見るなら七年に一度、諏訪の木落とし、坂落とし』



地図 航空写真



地図 航空写真

